特定非営利活動法人

ハート・オブ・ゴールド
活動報告集 2016

目　　的

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて、自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことができる機会創造に寄与することを目的としている。

特に、途上国の人々が自分達の抱える問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2017 年 5 月 31 日発行

特定非営利活動法人　ハート・オブ・ゴールド
〒701-1213　岡山市北区西辛川 895-7-101
TEL/FAX:086-284-9700　Email:hginfo@hofg.org
http://www.hofg.org/　http://www.facebook.com/heartsofgold.japan

2016 年度事業報告書（期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

1 事業実施の方針

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことができる機会創造に寄与することを目的とする。特に、途上国の人々が自分たちのかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

（1） 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施日	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）後援 ・アンコールウォーキング大会	・スタディツアーの有志が参加し大会を盛り上げた ・参加者は 85 ヵ国・地域から 9,150 人と過去最高 ・遺跡内を地元の子ども達と歩き、交流した	12 月 4 日 12 月 2 日	カンボジア（シェムリアップ）
	・チャリティイベント（スポーツエイド）	・チャリティマラソンやバザーなどのチャリティイベントの開催協力 （計 21 回）	4 月～3 月	日本
スポーツを通じた開発支援事業	・小学校体育科教育振興事業（JICA 草の根技術協力）	・第 3 フェーズが 9 月で完了。4 地域で評価を実施。最終の中央協議会を開催し、教育大臣に提言書を提出した	4 月～3 月	カンボジア 日本
	・小学校体育普及支援事業（岡山市 CLAIR 補助金）	・サブ NT の日本での研修 ・日本の教員が現地で教員への体育実技講習会を開催		
	・中学校体育科教育指導要領作成支援事業（SFT 再委託）	・体育科教育指導要領が完成し、教育大臣の認定を受けた。これで、小中一貫した体育科教育の基盤ができた		
	・中学校体育科教育指導書作成・普及事業（JICA 草の根技術協力）	・1 月から開始。関係諸機関の役割を明確にするワークショップと指導書執筆に向けての第一回ワークショップを実施		
	・スポーツ施設設置	・体育拠点小学校に施設を支援（鉄棒 4 校、マット 44 校に 78 枚、ボール 84 個）		
障がい者支援事業	・障がい者陸上支援事業（SFT 再委託）	・日本から専門家を招き、障がい陸上ワークショップとパラ競技会を開催 ・情報交換のためのオープンクラスを開催	4 月～3 月	カンボジア 日本
	・日本のマラソン大会への招聘	・障がい者ランナーをかすみがうらマラソンとおかやまマラソンに招聘		
被災地・紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育	・チェイ小学校での日本語教室 ・BBU 大学での日本語講座	4 月～3 月	カンボジア（シェムリアップ） カンボジア
	・養護施設（NCCC）運営	・孤児や貧困児童を受入れ養育する（里親制度）。 ・ローカルスタッフの人材育成 ・日本の学校との交流		
	・子どもの健康増進・疾病予防	・12 月に日本人医師(TAO)による歯科検診（チェイ小） ・むし歯予防のための歯磨き指導 ・小学校に設置した浄水器のメンテナンス		
	・3.11 子ども animo プロジェクト	・被災地の 2 つの小学校に太陽光街路灯を設置		宮城県 福島県
	・4.14 子ども animo プロジェクト	・日本警察消防スポーツ連盟と協働で被災地支援		
国際理解・交流事業	・スタディツアー	・国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により貧困・平和・開発について理解を深める ・学生や団体のスタディツアー受入れ（計 29 回）	4 月～3 月	日本 カンボジア
	・サービスラーニング（ESD=持続可能な開発のための教育）	・学校や団体に講師を派遣（計 20 回） ・国際協力の実践的学習の場を学校に提供 ・スカイプや文通、メールによる現場との交流の機会提供	4 月～3 月	日本 カンボジア
	・研修・啓発・講演会	・国際協力パネル展に出品、講演会に参加（計 18 回）		
	・インターン受入れ（国内外）	・インターン・ボランティアの受入れ（短・長期）（計 4 人）		
その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	・調査/研修	・調査実施。シンポジウム、国際会議への参加	4 月～3 月	日本 カンボジア
	・広報活動	・「通信」を年 2 回発行 ・ホームページの更新、記録映像の保存 ・NHK World の番組”Field Days”の制作に協力 ・20 周年記念ブックレット作成準備		

（２）その他の事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施場所	実施日
バザーその他物品販売事業	**‣チャリティバザー** **‣グッズ販売** **‣パネル展示**	･各地で開催されるイベントへの参加。 ･T シャツなどの販売やパネル展示を通して活動資金を集めるとともに、活動の広報を通して国内での支援者の拡大を図る。	日本	随時

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン後援、アンコールウォーキング大会
事業分類	国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力
協働団体	カンボジアオリンピック委員会（NOCC）、カンボジア陸上競技連盟（KAAF）、カンボジア観光省

活動概要

大会趣旨:

・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。

・大会エントリー費用は、義手義足と地雷被害者の社会復帰・自立を支援するとともに、青少　年エイズ予防支援活動等に活用される。

・健常者だけでなく、障がい者にも、共に走ることを通じて、勇気と希望を与える。

・カンボジアに対する世界各国からの支援に感謝し、元気なカンボジアを訴求する。

・公認及び協力ツアーの旅行代金の一部とその他の寄付をカンボジアのスポーツ振興に役立てる。

テーマ: **“Building a better future – Aid for children and disabled people in Cambodia”**

主　催: カンボジア観光省、カンボジアオリンピック委員会（NOCC）、カンボジア陸上競技連盟（KAAF）

主　管: カンボジア陸上競技連盟（KAAF）

運　営: アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会、 Cambodia Events Organizer Co., Ltd.(CE)

後　援: カンボジア政府、シェムリアップ州、観光省、文化・芸術省、教育・青年・スポーツ省、在カンボジア日本国大使館、**ハート・オブ・ゴールド**、在日本カンボジア大使館、 APSARA Authority、カンボジア赤十字、カンボジアトラスト、ハンディキャップ・インターナショナル、アンコール小児病院、ロイヤルアンコール国際病院、Angkor Century Resort & Spa

日　時: 2016 年 12 月 4 日（日） 午前 6 時 00 分スタート

種　目: ハーフマラソン(男女/車椅子男女)、10km ロードレース（男女/義足男女/義手男女）、3km ファン・ラン（オープン）

コース: アンコール遺跡周回特設コース（AIMS 公認）

プレ・イベント: ・コースチェック(12/3): 運営：CE　　・前夜祭(12/3): 運営：観光省、CE

参加者: 9,150 人（85 ヵ国・地域から） ※参加者は過去最高。

チャリティ: 本年度：US$50,400（ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ赤十字、ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ・ﾄﾗｽﾄ、ﾊﾝﾃﾞｨｷｬｯﾌﾟ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ障がい者陸連、アンコール小児病院、**ハート・オブ・ゴールド**） 第 1 回大会（1996）から第 20 回大会（昨 2015 年）までの合計：US$390,244

▸本年第 21 回大会の**ハート・オブ・ゴールド**への寄付金は合計 US$8,400（内訳：NCCC に US$2,000、障がい者支援に US$2,400、体育教育に US$2,000、自立支援に US$2,000）

特記事項:

- 有森代表は 1996 年の第1回大会から参加し、ハート・オブ・ゴールドは 1998 年から特別運営協力を行ってきた。2013 年開催の 18 回大会はカンボジア側に広報、準備、資金調達、会計、運営を全面移譲した。カンボジア人の手による 4 回目となる今大会は、マラソンコース、給水、ボランティア、警備等を含め、問題なく運営され、有森代表もカンボジア側の運営技術の向上を心から喜んでいた。
- 日本からは当会のスタディツアーとして 25 名が 12 月 1 日からカンボジアを訪れ、有森代表を囲んで全員での歓迎パーティ、エイズ撲滅の願いを込めたウォーキングイベント、当会が運営する養護施設（ニュー・チャイルド・ケア・センター：NCCC）訪問、そしてアンコールワット国際ハーフマラソンに参加した。
- 本年 4 月 16 日に開催されるかすみがうらマラソンに招待される有森賞の選手：10km 義手男子2位の UK Samphors さんと 10km 義手女子の NGUON Ratana さんの2名。
- 12 月 2 日のウォーキングイベントには、スタディツアー参加者 25 名、NCCC の子ども達 20 名、チェイ小学校の児童 60 名、BBU 日本語教室の学生 30 名、障がい者陸上連盟（シェムリアップ）のランナー14 名、岡山女性交流会の 18 名が参加し、アンコールワット正門前から象のテラスまでの約 5km をみんなで歩いた後、レクリエーションとしてエアロビクスやゲームを行い、子ども達と交流した。

支援・協力団体:

かすみがうらマラソン、㈱RIGHTS.、JTB 中国四国岡山支店、タイヨー薬局、神戸甲北高校陸上競技部有志

事業名	カンボジア王国　小学校体育科教育振興事業　（JICA 草の根技術協力事業）
事業分類	スポーツを通じた開発支援
支援団体	カンボジア王国　教育･青年･スポーツ省、地方教育局、モデル小学校、モデル教員養成校

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材・教材等の教育システムが根底から破壊された。パリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められているが、人間開発の根幹を担う情操教育には殆ど着手されず、国家の未来を担う子ども達の健康と健全な育成を保証する上で重要な体育科教育は、クメール体操と呼ばれる簡易運動に留まっていた。そこで当会は、教育･青年･スポーツ省、JICA、筑波大学と連携し、体育の授業の全国的な普及に向けて、2006 年から 2009 年に、指導要領の新訂と指導書案の作成を実施、2009 年から 2012 年に、5 州 10 小学校、5 教員養成校を拠点校として、基本的な普及基盤を確立してきた。

2013 年 4 月から 2016 年 10 月には、教育･青年･スポーツ省の学校体育スポーツ局が自立的に体育科教育を普及できる体制が確立されることを事業目標とし、教育･青年･スポーツ省の担当官の増員と育成、15 州（バッタンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州、バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州、プレアヴィヒア州、コンポントム州、カンポット州、コッコン州、ラタナキリ州、ストゥントレン州、プレイヴェン州、タケオ州）での体育科教育の普及など、教育･青年･スポーツ省が独自に事業成果を継続できる体制作りのための活動を実施した。

本年度の活動概要　（2016 年 4 月～2017 年 3 月）

1）JICA 草の根技術協力事業

① 第 2 地域（クラチェ地域）において、クラチェ州、ラタナキリ州、ストゥントレン州の拠点校と教員養成学校を対象とした最終評価を実施（2016 年 5 月）

② 第 3 地域（シアヌークビル地域）において、シアヌークビル州、コッコン州、カンポット州の拠点校と教員養成学校を対象とした最終評価を実施（2016 年 6 月）

③ 第 4 地域（バッタンバン地域）において、バッタンバン州、バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州の拠点校と教員養成学校が対象の最終評価を実施（2016 年 6 月）

④ 第 5 地域（シェムリアップ地域）において、シェムリアップ州、コンポントム州、プレアヴィヒア州の拠点校と教員養成学校を対象とした最終評価（2016 年 7 月）

⑤ 5 地域 15 州のすべての拠点校と教員養成学校を対象とした最終評価を実施。全 46 校中 39 校を教育省認定の研究指定校に認定し、研究指定校プレートを授与

⑥ 筑波大学の岡出教授を講師として、NT、地域トレーナー、14 州の州教育局担当官、13 州の教員養成校の校長、教員を対象とした最終の中央研修会を開催した（2016 年 7 月）

⑦ NT と、15 州から州・郡の教育局担当官が参加して、「小学校体育の持続的普及のためのまとめ会議」を開催した（2016 年 9 月）

⑧ NT6 名、サブ NT6 名に対する最終評価を実施し、その結果、NT から専門家 4 名が誕生し、サブ NT6 名全員が NT に認定された（2016 年 9 月～10 月）

⑨ カンボジア教育･青年･スポーツ省主催の年次総会において、事業進捗報告及び提言をを行った（2017 年 3 月）

2）岡山市との連携事業（自治体国際協力促進事業：モデル事業）

① 岡山市の小学校教員が、シェムリアップ州とプノンペン市で、現地の小学校教員、州・郡の教育局担当官、教員養成校教員への実技講習会（マット運動、リズム運動）を開催（2016 年 8 月）

② 教育省アドバイザー、学校体育スポーツ局長、NT 2 名、サブ NT6 名を岡山に招聘し、体育科教育の能力強化研修を行った（2016 年 10 月）

3）シェムリアップ州、バッタンバン州、スヴァイリエン州、シアヌークビル州、クラチェ州の拠点校へのマット配布

4）バッタンバン州 4 小学校、スヴァイリエン州 2 小学校及びシェムリアップ州 1 小学校において教育省主導の運動会を開催

シェムリアップ州最終評価

ラタナキリ州研究指定校
プレート贈呈

最終の中央研修会

次年度の実施計画

- 一昨年度、昨年度と教育・青年・スポーツ省が指導書を印刷し、全国の小学校に配布した。体育科教育の更なる普及のために教育大臣を始めとしたキーパーソンへの働きかけを継続していく。
- 当会が地方出張の際、また教育省の独自予算による NT の地方での体育ワークショップや青年海外協力隊との連携で体育をさらに普及してゆく。

支援･協力団体

（独法）国際協力機構（JICA）、筑波大学、岡山市、岡山大学、親子チャリティマラソ in おもちゃ王国実行委員会、大光電機株式会社、チャリティディナー実行委員会、岡山市立曽根小学校、第三藤田小学校、就実中学・高校生徒会、順天中学高等学校、岡山市立陵南小学校、岡山市立岡山中央小学校、岡山市立妹尾小学校、倉敷市立連島東小学校

事業名	カンボジア王国中学校体育科教育指導要領作成支援事業 （文部科学省戦略的二国間スポーツ国際貢献事業【スポーツ・フォー・トゥモロー】プログラム） カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成・普及事業 （JICA 草の根技術協力事業）
事業分類	スポーツを通じた開発支援
支援団体	カンボジア王国　教育･青年･スポーツ省、地方教育局、モデル中学校、モデル教員養成校

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材･教材等、教育システムが根底から破壊された。1991 年のパリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められていたが、人間性の発達の根幹を担う情操教育には殆ど着手されていなかった。また、当該国では研究機関が未開発であるにも関わらず、未だ教育施設整備に偏った教育開発に留まっていた。さらに、国家の未来を担う子ども達の健康･健全育成を保証する上で重要な体育科教育は、簡易運動のみに留まっていた。そこで、当会は教育･青年･スポーツ省、JICA、筑波大学との連携を図り、小学校体育科教育の全国的な普及に向けて、2006 年から 2009 年にかけて、指導要領の新訂、指導書案の作成を支援、2009 年から 2012 年にかけて、5 州 10 小学校、5 教員養成校を拠点校として、基本的な普及基盤を確立、2013 年から 2016 年にかけては、15 州 13 教員養成校、33 小学校への普及と教育省内の自立的普及に向けたシステムの構築に取り組んだ。

一方、中学校体育に関しては未整備の状態のままだった。また、中学校の担当局は、学校体育スポーツ局に加え、国立体育・スポーツ研究所も関わるため、制度的な整理と役割の明確化、人材育成が引き続き必要であることから 2015 年度より、人材育成、学習指導要領作成、体制構築のための事業を開始した。カンボジアでは 2023 年の東南アジアゲームに政策の重点を置いている中、小学校・中学校の一貫した体育科教育を確立していくことは、国家政策的に見ても必要性は高い。

本年度の活動概要 （2016 年 4 月～2017 年 3 月）

1） 中学校体育科教育指導要領作成支援事業（SFT 再委託）（2016 年 4 月～12 月）

1. 学習指導要領執筆ワークショップ（6 回）
   - 技術委員会 12 名のために、学習指導要領の構成や内容についてのワークショップを開催した。
   - うち 4 回は、佐藤豊教授（桐蔭横浜大学）、三田部勇准教授（筑波大学）、スプラニー・クワンブンチャン准教授（シーナカリンウィロート大学；タイ）、山口拓助教（筑波大学）を講師として招聘した。
2. モデル州でのワークショップ（プノンペン 3 回、スヴァイリエン 3 回、バッタンバン 3 回、国立体育スポーツ研究所 1 回）
   - 作成中の学習指導要領を利用した現場教員に対してのワークショップ
   - 計 10 回のうち 3 回は、佐藤豊教授、白旗和也教授（日本体育大学）、三田部勇准教授を講師として招聘した。
3. レビュー（振り返り）ワークショップ（1 回）
   - モデル州でのワークショップを振り返り、改定する点を確認するためのワークショップを開催した。
4. 中央研修会（2016 年 11 月 1 日～3 日）
   - 学習指導要領の最終ドラフトが完成したので、筑波大学の岡出美則教授を招聘して、全州の教育局担当者を対象に、学習指導要領普及のためのワークショップを開催した。
5. 中学校学習指導要領認定式（2016 年 12 月 21 日）
   - 義家弘介氏（文部科学省副大臣）、堀之内秀久氏（在カンボジア日本国特命全権大使）、河原工氏（日本スポーツ振興センターディレクター）、安達一氏（JICA カンボジア事務所長）、岡出美則氏、有森裕子氏（ハート・オブ・ゴールド代表理事）が出席し、認定式を開催、学習指導要領の完成を広く通知した。

2） 中学校体育科教育指導書作成・普及事業（JICA 草の根技術協力）（2017 年 1 月～）
   - 技術委員会メンバーが正式決定され、学校体育スポーツ局、国立体育スポーツ研究所、州教育局の役割を明確にするためのワークショップを実施（2017 年 3 月 13 日～15 日）

学習指導要領作成ワークショップの様子

NIPES のワークショップでボカタオの模擬授業

中学校学習指導要領認定式の記念撮影

次年度の実施計画

- 指導書作成ワークショップ（2 回）
- 指導書案モデル州ワークショップ（プノンペン、バッタンバン、スヴァイリエン）（各 2 回）
- 技術委員会メンバーの本邦研修
- 学習指導要領と指導書案の活用状況確認のモニタリング（プノンペン、バッタンバン、スヴァイリエン）（各 1 回）

支援･協力団体

日本スポーツ振興センター、（独法）国際協力機構（JICA）、筑波大学、奈良トヨタ自動車（株）、篠山 ABC マラソン大会実行委員会、みしまマラソン大会実行委員会、HG 長岡クラブ

事業名	カンボジア王国　障がい者陸上支援事業 （文部科学省戦略的二国間スポーツ国際貢献事業【スポーツ・フォー・トゥモロー】プログラム）
事業分類	障がい者支援
支援団体	カンボジア王国　教育･青年･スポーツ省、カンボジアパラリンピック委員会、障がい者陸上連盟

活動理由

カンボジアでは、未だに、障がいは前世で悪いことをしたためと言われることがあり、社会に出ることが難しい障がい者も多い。当会は、毎年 12 月に開催されるアンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）を通じて、参加者が、障がいがあってもマラソンを介して社会に出ることができるようになるという希望を持てるようになったり、マラソン大会の登録費からチャリティとして義手・義足製作のための寄付をする等の支援をしてきた。AWHM で上位に入賞した障がい者ランナーを、AWHM の姉妹マラソンであるかすみがうらマラソンに招待する等、障がい者がより多くのスポーツに参加できるように機会を提供してきた。

また、カンボジアの障がい者陸上連盟と共同で、障がい者の陸上トレーニングへの支援を実施してきたが、選手のトレーニング方法や、コーチの指導方法に関しては、研修等を受けたことがなく、課題を抱えていた。

そのため、選手がより効率的に練習できることや、コーチが、選手だけでなく、これから陸上を始めようという障がい者に対しても陸上の面白さや楽しさを教えることができるようになることを目的として、障がい者陸上支援プロジェクトを実施した。

本年度の活動概要

本年度は以下の活動を実施した。

1) 2017 年 1 月 30 日から 2 月 1 日　の 3 日間、日本パラ陸上競技連盟から、三井利仁氏と近藤克之氏を招聘し、障がい者陸上のワークショップを開催した。
   - 46 名の障がい者選手、新たな競技者、14 名のコーチ、13 名のアシスタント及びコーディネーター、6 名の保護者が参加し、障がい者陸上のトレーニング方法や指導方法について学んだ。

パラ・陸上トレーニング・ワークショップ

2) 2017 年 2 月 17 日、24 日、3 月 3 日、10 日の計 4 回、障がい者陸上に関する情報交換会としてオープンクラスを開催した。
   - 2 月 17 日：ワークショップの振り返り
     28 選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加
   - 2 月 24 日：練習計画について
     25 選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加
   - 3 月 3 日：練習方法の紹介
     22 選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加。筑波大学学群生 3 名がそれぞれ、車椅子、立位短距離、立位長距離に分かれ、練習方法を紹介。
   - 3 月 10 日：形態・体力測定
     45 選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加

パラ・陸上競技会

3) 2017 年 3 月 11 日、12 日の 2 日間、日本大学の近藤克之講師を招聘し、カンボジア・ナショナル・パラ陸上競技会を開催した。
   - 37 名の障がい者選手、8 名のコーチ、6 名のアシスタント、25 名のパラリンピック委員会スタッフ、5 名の保護者が競技会に参加し、主に短距離及び中距離の障がい者陸上競技を体験した。

パラ・陸上競技会後の教育・青年・スポーツ省大臣出席の集合写真

特記事項

- 2017 年 1 月から 3 ヶ月間、JICA 青年海外協力隊短期派遣として、筑波大学大学院生が 2 名、2 月から 1 ヶ月間、同大学学群生 3 名が、障がい者陸上支援のため派遣され、本事業に協力した。

次年度の実施計画

- 2017 年 2 月から開始しているオープンクラスを継続支援しながら、障がい者ランナーや指導者のニーズを把握し、継続的な支援につなげていく。
- 12 月のアンコールワット国際ハーフマラソン参加のための支援を継続していく。

支援・協力団体

日本スポーツ振興センター、（独法）国際協力機構（JICA）、筑波大学、チャリティディナー、HG 飯田クラブ、岡山南ロータリークラブ、吹田中の島チャリティ・ラストラン、（株）日刊スポーツ新聞、エイコースポーツ、かすみがうらマラソン

事業名	日本語教育事業
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援

活動理由

(1)チェイ小学校 HG 日本語教室

チェイ小学校で 2000 年 9 月に開講し 2015 年 1 月に日本人教師の退職に伴い一時閉鎖していた HG 日本語教室は、2015 年 11 月に再開した。かつてここで日本語を学んだスライノッチが、昨年に引き続き今年も教師を務め、チェイ小の 4 年生～6 年生と、卒業生である中学 1 年生が日本語初級を学んでいる。義務教育を終えただけでは職に就くことが難しい中、過去の日本語教室の卒業生は、この日本語教室で身につけた日本語能力を使って、ホテル、レストラン、ガイドなどの職を見つけて働いている。新しい生徒たちも、そんな先輩たちの後に続こうと、日々勉強に励んでいる。

(2)BBU 大学(Build Bright University)日本語講座

シェムリアップ市内での青年達への日本語教育のために、BBU 大学外国語センターにおいて、2015 年に日本語講座を開講した。日本語教師は、京都民際日本語学校から派遣されている日本人教師と、チェイ小学校 HG 日本語教室の卒業生であるカン・ナモイとコル・ソティアラの 3 名である。授業時間は 1 時間か 1.5 時間で、現在は 5 クラスを開講し、BBUの学生だけでなく、他大学の学生や高校生も学んでいる。日本文化に馴染んでもらうため、授業中に日本の歌やテレビ番組、折り紙などを紹介している。英語を話せる学生は多いが、もう一つの外国語として日本語を身につけることで、仕事を得る機会が増え、日本人と交流できる仕事も探すことができる。

*(1)(2)ともに HG が行っている日本語教育には、高等教育という理由で助成金がほとんどなく、下欄の団体の寄付で活動を行っている。

活動概要

(1)チェイ小学校 HG 日本語教室

人数:15 名／ 内容:初級

開講日時:月曜～金曜 午前 11 時～12 時

(2)BBU 大学日本語講座

・人数と時間:

A クラス(5 名) 月曜～水曜 午前 10:45～12:15

B クラス(5 名) 月曜～木曜 午後 5:00～6:00

C クラス(8 名) 月、水、金 午後 5:00～6:00

D クラス(8 名) 火、水、木 午前 10:45～11:45

E クラス(10 名) 火、水、木 午後 5:00～6:00

・内容: 初級～初中級

物資支援

日本の学校から、文房具や教材の支援がある。

卒業生(チェイ小学校HG日本語教室)

HG日本語教室を卒業した生徒は、日本語ガイド、看護師、日本語教師、地元企業での勤務、レストラン勤務、旅行会社勤務等々、それぞれ自立して頑張っている。また、卒業生のうち3名(スライノッチ、ナモイ、ソティアラ)がHGのスタッフとして、NCCCや日本語教室で働いている。

今後の活動

チェイ小学校では、週日の午前中に初級クラスを 1 クラス開講。

BBU 大学では、初級クラスだけでなく、中・上級クラスや日本語検定試験対策講座、少人数でのグループレッスンなどを開講し、学生の幅広いニーズに応えていく。

支援・協力団体:

岡山外語学院、個人支援者、岡山市立平福小学校、岡山市立野谷小学校、他協力小学校、チャリティディナー実行委員会、倉敷平成ライオンズクラブ、HG 飯田クラブ、(株)MUGEN

事業名	養護施設運営 【ニュー・チャイルド・ケア・センター（NCCC）】
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援

NCCCの目的 ：孤児、あるいは孤児に準ずる子ども（両親や親戚が養育できない状態におちいった子どもが安心して生活できる環境で養育を受け自立できるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。

場所：シェムリアップ州タックヴェル郡チェイ村

子どもの数： 17名 （2017年3月31日現在）

NCCCの子ども達

校外教育

・**日本語教育**： チェイ小のHG日本語教室に、小学校高学年と中学1年生の子どもが週4日（月、火、水、金）参加している。

高校生1名と中学3年生の2名は、シェムリアップ事務所で実施しているBBU日本語教室分室で大学生と共に日本語を学び始めた。

・**アプサラダンス**（クメール伝統舞踊）：ｶﾝﾎﾞｼﾞｱの伝統に触れるため、毎日曜日の午前に2時間習っており,センター訪問者に踊りを披露している。

・**絵画教室**：昨年同様、月2回（隔週の土曜日午後）、「小さな美術スクール」（主宰者・笠原知子先生）で、絵画教室（油絵やアクリル絵）に参加。

今年も、ウォーキングイベントのTシャツのデザインは子ども達の絵を採用した。

アプサラダンスを披露

歯科検診と歯磨きの習慣

一昨年、昨年に引き続き、１２月に、TAO（東洋医学研究会）の歯科医の先生方に、歯科検診と虫歯予防教育を実施していただいた。2年前から始まったこの活動により、子ども達には毎日の歯磨きの習慣がつき始め、虫歯が多かった口腔内の状態も改善している。

絵画教室で笠原先生と

3人の子どもがNCCCを卒園

サモットとスライヤット兄妹が、親元に引き取られてNCCCを卒園した。

彼らの保護者から、経済状態が良くなったため子供を引き取りたいという申し出があり、2人は夏休み中に中学の転校手続きを済ませ親元に戻った。

また、義務教育を終えたサレーがNCCCを卒園し、実家のある田舎に戻った。

畑での野菜の収穫

今年も昨年に続き、スタッフのタイリーが中心となって畑作を行い、少ないながらも野菜が収穫できた（トウモロコシ、オクラ、カボチャ、空芯菜など）。

子ども達は畑仕事を手伝うことで、農作業の大変さや収穫の喜びを学んでいる。

岡山学芸館高校・清秀中学校の活動

日本との交流 （年間 24 組を受け入れ）

夏休みに来訪した神戸学院大学の学生達は、NCCC でミニ運動会を開催し、さまざまな競技を子ども達に教えてくれたり、たこ焼きを一緒に作ったりして大いに盛り上がった。岡山学芸館高校・清秀中学校は、本年も継続して来訪され、ボランティア活動（支援してくれた浄水器の整備・野菜栽培）に汗を流した。学芸館SGHチームは子ども達と交流後、チェイ村の聞き取り調査をした。

NCCC では今年も、岡山の小学校とスカイプを使った交流を行い、お互いに顔を見て、声を聴きながらの交流を継続することで、子ども達は、行ったことのない日本の生活や学校について想いを膨らませた。また、ハート・ペアレント（里親）さんもHGスタディツアーに参加して，子ども達と楽しいひと時を過ごした。

ボランティア受入れ

9 月に 5 日間、新潟国際大学の学生 1 名がボランティア活動を行った。

スカイプで日本の学校と交流

支援・協力団体

小さな美術スクール、ハート・ペアレント、スタディーツアー参加者、TAO（東洋医学研究会）、高野山真言宗/南真会、岡山せとうちライオンズクラブ、岡山学芸館高校・清秀中学校、協力小・中・高・大学、（株）翌檜、（有）キャッチボールカモン R、藤沢ロータリークラブ、（株）MUGEN、チャリティディナー実行委員会

事業名	3.11 子ども animo プロジェクト
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援
支援対象	3.11 被災小学校 （宮城県）

山下第二小学校

宮野森小学校落成式

活動理由

2011 年 3.11 に起こった未曾有の東日本大震災に対して、震災当初からHG石巻クラブとHG福島クラブとが連携して、継続的支援を実施している。

活動概要 太陽光街路灯設置

設置場所 ：東松島市立宮野森小学校、石巻市山元町立山下第二小学校

児童数が減少していた宮戸小学校と、東日本大震災で甚大な被害を受けた野蒜小学校の両校は 2016 年 4 月に統合し、宮野森小学校として生まれ変わり、12 月には津波の心配がない高台に「森の学校」として木造校舎を新築。

HG は、この新校舎に、JS ファウンデーション*と協働して、太陽光街路灯を 5 基設置した。同じく、山下第小学校にも、太陽光街路灯 6 基を設置（8 月）。これら街路灯は、地域の避難所となる新校舎を照らし、これからも子ども達の安全を見守っていくだろう。

石巻市立渡波（わたのは）小学校の木村先生からは、「渡波（わたのは）小学校通信」が送られてきており、子ども達からも葉書が届いたりして、元気に育っている様子がよくわかる。

*JS ファウンデーションは 1999 年に、歌手の浜田省吾氏が中心となって、共鳴した人達とともに設立した団体。世界で活動している NGO や国連、団体と協力して、20 ヵ国以上で、最も支援を必要としている人々への活動を継続している。

助成・協力団体

JS ファウンデーション、淀川国際ハーフマラソン、吹田中之島マラソン、HG 福島クラブ、HG 石巻クラブ

事業名	4.14 子ども animo プロジェクト
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援
支援対象	益城町被災者、避難所 （熊本県）

「大切なもの」を取出す活動

避難所に衣類支援

益城中央小学校に水着支援

活動理由

熊本で 4 月 14 日以降、大きな地震が頻発し、16 日にはM7.3 の本震と思われる地震が発生、大きな被害をもたらし救援が必要な状況を受けて、日本警察・消防スポーツ連盟（JPFSF）が緊急救援に入った。

HG は、かすみがうらマラソンの当日（4 月 17 日）から、かすみがうらマラソン実行委員会の協力を得て、リターン T シャツとカレー1,000 個を現地に送ることを決め活動を始めた。

活動概要

HG は JPFSF からの情報を受けて協動して活動を継続。JPFSF は倒壊の危険がある家から『大切なもの』を取出す活動をしており、HG は必要な機材（チェンソー、オイル、バール、粉塵用マスク、解体道具等）を調達し送った。

その後、現地からの要請を受けて、子ども用下着、T シャツ、学校用水着（学校からの要請企業が協力）、衣類、靴等を、企業や個人の方々からの協力のもと、調達し現地に届けた。新聞社の協力もあり、衣料は約 2 トン集まり、20 ヵ所の避難所に配付。9 月には、岡山の天満屋デパートの協力で、子ども用の靴を保育園に配布した。

成果

現地に入って活動している JPFSF と常に情報交換して活動できたおかげで、確実な現地情報を得ることができ、必要な場所に、必要な支援をすることができた。HG としては、9 月末で支援活動を終了したが、JPFSF は現在も支援を継続している。

詳細は HG フェイスブック（https://www.facebook.com/heartsofgold.japan）で発信した。

助成・協力団体

日本警察・消防スポーツ連盟（JPFSF）、かすみがうらマラソン、淀川国際ハーフマラソン、官公学生服(株)、HG 飯田クラブ、CHIBA RUNNERS、岡山天満屋、4・14 絆の会有志一同

事業名	サービスラーニング（ESD=持続可能な開発のための教育）事業
事業分類	国際理解・交流事業
支援対象	日本国内（小・中・高校・大学） カンボジア（BBU 日本語講座、New Child Care Center (NCCC)、HG チェイ小日本語教室、体育科認定校）

活動概要

学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。
子ども達が、世界の現状（貧困・環境・平和など）に目を向け、グローバルな視点から、国際理解（異文化理解）を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演（カンボジア来訪者、スタッフ他）IT 機器による交流（メールやスカイプなどを利用）、ビデオ、文通、現地を訪問するなど、様々な手段を利用。そして交流したなかで、異文化理解や持続可能な開発などについて考え、自らの生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材を育成する。

１）　出前授業

20 回の出前授業を実施（代表、HG 本部スタッフ、東南アジア事務所スタッフ、日本語教師、留学生）。実際に活動している人から話を聞くことにより、現地を理解し、自分達にもできる活動を考える。

岡山市立平福小学校、第 3 藤田小学校、朝日塾小学校、野谷小学校、政田小学校、曽根小学校、岡山清秀中学校、岡山学芸館高校

スカイプ交流でじゃんけん

２）　交流

手紙やプレゼントの交換、スカイプでの交流を通して異文化理解を深めた。
日本の教室と NCCC をスカイプで結んで、お互いに歌や体育実技等を披露し合った。
両国の子ども達にとって、直接、顔が見え声が聞こえる貴重な機会になった。

大学生とたこ焼きづくり(NCCC)

３）　派遣・研修受入

カンボジアに派遣：岡山市の教員 4 名を派遣して体育科教育の実技講習会を開催。
カンボジアから受入れ：教育省から岡山大学と岡山の小学校に受入れ研修。
大学生・高校生研修ツアー受入れ：カンボジア NCCC や BBU にて受入交流。

４）　設備・物資支援（日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材の支援に活用）

ｱﾝｺｰﾙｳｫｰｷﾝｸﾞ大会、体育教育研究指定校、NCCC などに必要な物資を、日本の協力学校や団体が集め、ﾂｱｰで持ち込み、必要な所に配付。募金は、体育用具支援として、鉄棒(4 校)、マット(44 校に 78 枚)、ボール(84 個)、平均台(1 校)を贈呈した。
支援物資は、T シャツ、教材、文房具、歯ブラシ、カレンダー、石鹸、衣類、タオル、遊具など。

認定小学校にマット贈呈

５）　現地受入れ（29 回）

高校生･大学生、NGO などのｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰや個人を、ｶﾝﾎﾞｼﾞｱの活動現場（NCCC、運動会、BBU）に受入れ、国際協力や交流を実施。現地での実体験は日本の学生にとって大きな刺激となり、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ人材育成に寄与した。

岡山市の教員による
体育実技講習会

成果

年間を通じて途上国に関わることで、貧困、環境、食料、人権、平和などがつながりをもって連関している事を知る。また、自分達のおかれた地域に目を向け、持続可能な社会を協力して作ることができるようになった。自分たちが支援した募金・物資などが、現地に渡され喜ばれ活用されたことを知ることで、活働の意味を見つけた。
相手の立場に立って考えられる冷静さと、継続する大切さなどを確認。友人や家族と共に活動して自分の身のまわりから変えていくことで社会を変えていく喜びを感じた。2017 年度も教育現場の先生方が現地で活動されたことで、子ども達にｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな視点から異文化理解・国際協力が広がることを期待したい。

今後の計画

現地スタッフやカンボジア人などができる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組む「SDGｓ/持続可能な開発のための目標」に協力して、実践を通して子ども達が地球規模で未来を考え、社会性が育つ活動を進めたい。
日本の青少年を活動現場で受け入れて(インターンやボランティアとして)、体験を通しての成長を育みたい。

助成･協力団体

岡山 ESD 推進協議会、岡山市教育委員会、協力小･中･高校・大学、個人支援者、BBU 大学(Build Bright University)

2017 年度　事業計画書

（期間：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

（１）　特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	›アンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）後援 ›アンコールウォーキング大会	･スタディツアーの有志が参加し大会を盛り上げる ･遺跡内を地元の子ども達と歩き、交流する	カンボジア（シェムリアップ）
	›スポーツエイド ›チャリティイベント	･チャリティマラソンやスポーツイベントの実施・協力 ･チャリティイベントの開催協力	日本
スポーツを通じた開発支援事業	›小学校体育科教育振興支援	･教育省による地方での体育ワークショップや青年海外協力隊との連携で体育をさらに普及してゆく。 ･教育大臣を始めとしたキーパーソンへの働きかけを継続	カンボジア
	›スポーツ施設設置	･体育拠点小学校に施設を支援	
	›中学校体育科教育指導書作成・普及事業（JICA 草の根技術協力）	･指導書執筆ワークショップ（2 回） ･指導書案モデル州ワークショップ（各 2 回） ･技術委員会メンバーの本邦研修 ･学習指導要領及び指導書案の使用状況をモニタリング	カンボジア
障がい者支援事業	›障がい者陸上競技支援	･オープンクラスの支援を続けながら、障がい者ランナーや指導者のニーズを把握し継続的な支援につなげる。 ･アンコールワット国際ハーフマラソン参加のための支援を継続する。	カンボジア 日本
	›日本のマラソン大会への招聘	･障がい者ランナーをかすみがうらマラソン等に招聘する	
被災地・紛争地における自立・復興支援事業	›日本語教育	･チェイ小学校の日本語教室（初級）は継続。 ･BBU 大学の日本語講座は、中・上級クラスや日本語検定試験対策講座、少人数でのグループレッスンなどを開講し、学生の幅広いニーズに応えていく。	カンボジア（シェムリアップ）
	›養護施設（NCCC）運営	･孤児や貧困児童を受入れ養育する（里親制度）。 ･ローカルスタッフの人材育成 ･日本の学校との交流	カンボジア（シェムリアップ）
	›子どもの健康増進・疾病予防	･12 月に日本人医師による歯科検診（チェイ小学校） ･むし歯予防のための歯磨き指導 ･小学校に浄水器設置	
	›3.11 子ども animo プロジェクト	･被災地の小学校の支援	宮城県
国際理解・交流事業	›スタディツアー	･国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により貧困・平和・開発について理解を深める ･学生や団体のスタディツアー受入れ	カンボジア
	›サービスラーニング（学校教育支援）	･学校や団体に講師を派遣 ･国際協力の実践的学習の場を学校に提供 ･スカイプや文通、メールによる現場との交流の機会提供	日本 カンボジア
	›研修・啓発・講演会	･国際協力パネル展に出品、講演会に参加	
	›インターン受入れ（国内外）	･インターンの受入れ（短・長期）	
その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	›調査/研修	･調査実施。シンポジウム、国際会議への参加	日本 カンボジア
	›広報活動	･「通信」を年 2 回発行 ･ホームページの更新、記録映像の保存 ･20 周年記念ブックレット作成準備	

（２）　その他の事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施場所	実施日
バザーその他物品販売事業	›チャリティバザー ›グッズ販売 ›パネル展示	･各地で開催されるイベントへの参加。 ･T シャツなどの販売やパネル展示を通して活動資金を集めるとともに、活動の広報を通して国内での支援者の拡大を図る。	日本	随時

2016年度（平成28年度）活 動 計 算 書

［自　2016年（平成28年）4月1日　至　2017年（平成29年）3月31日］

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド　　（単位：　円）

科　　目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合　計
Ⅰ経常収益			
正会員受取会費	3,108,000		**3,108,000**
受取寄附金	35,000,348		**35,000,348**
みなし寄付金	74,118		**74,118**
受取助成金	4,722,278		**4,722,278**
業務受託金	33,722,790		**33,722,790**
商品売上高		872,000	**872,000**
雑収益	2,308,452		**2,308,452**
受取利息	46,971		**46,971**
経常収益計	**78,982,957**	**872,000**	**79,854,957**
Ⅱ経常費用			
1　事業費			
国内外におけるｽﾎﾟｰﾂ大会･ｲﾍﾞﾝﾄの運営協力事業	2,290,795		**2,290,795**
ｽﾎﾟｰﾂを通じた開発支援事業	35,774,326		**35,774,326**
障がい支援事業	5,920,692		**5,920,692**
被災地・紛争地における自立、復興支援事業	13,550,007		**13,550,007**
国際理解・交流事業	3,426,480		**3,426,480**
その他	2,139,738		**2,139,738**
商品売上原価		442,852	**442,852**
事業費計	**63,102,038**	**442,852**	**63,544,890**
2　管理費			
管理費経費	8,417,153	355,030	**8,772,183**
管理費計	**8,417,153**	**355,030**	**8,772,183**
経常費用計	**71,519,191**	**797,882**	**72,317,073**
当期経常増減額	**7,463,766**	**74,118**	**7,537,884**
Ⅲ経常外費用			
為替差損	350,205		**350,205**
みなし寄付金		74,118	**74,118**
経常外費用計	**350,205**	**74,118**	**424,323**
税引前当期正味財産増加額	**7,113,561**	**0**	**7,113,561**
法人税、住民税及び事業税		71,000	**71,000**
当期正味財産増加額	**7,113,561**	**△ 71,000**	**7,042,561**
前期繰越正味財産額			**99,722,758**
次期繰越正味財産額			**106,765,319**

＊みなし寄付金は認定NPO法人による税法上の優遇措置の処理を行っている。

監査報告書　　平成29年5月17日

監事　市川 捷治

監事　大﨑 泰正

私達は、平成28年4月１日から平成29年3月31日までの事業年度における会計および業務の監査を実施し報告します。

1. 監査方法

①会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを実施し、計算書類の正確性を検証しました。

②業務監査については、理事会およびその他の会議に出席し、必要と思われる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検証しました。

2. 監査意見

①事業会計収支計算書、貸借対照表、活動計算書は、法人の収支の状況ならびに財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

②事業報告書の内容は真実であることを認めます。

③理事の業務執行において、法令および定款に違反する事実はないと認めます。

以上